

職場の教養

発行部数 200 万部



職場の教養 11月号

2020(令和2)年11月1日発行
(毎月1回1日発行)
第45巻11号 通巻539号

編集人 川又寿久
発行人 和田 毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み、お問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ。

迷わず進むための確かな“道標”

本書は二部構成です。

第一部は

人が人として生きる心得や、生活のすじみちがテーマ。

時代はどんなに揺れ動いても、間違いなく進むための21篇のヒントがあります。

(月刊誌「新世」新世言より選出)

第二部は

「老いてなお氣力みなぎる」がテーマ。

幾つになっても氣力を充実させ、

遅く生きるために、

お手本となる人たちの

足跡を辿ります。

(ニューヨーク倫理友の会 会報より選出)

新刊

みちしるべ

倫理研究所 理事長
丸山敏秋 著



- | | |
|----------------|---------------------|
| 第一部 日々をゆたかに生きる | 第二部 老いてなお氣力みなぎる |
| ◎この世は不思議に満ちている | ◎午後三時からの人生 |
| ◎ストレスに負けない生き方 | ◎すごいな、北斎—ジャポニズムの立役者 |
| ◎「いま・ここ」を生きる | ◎「奇跡」のピアニストは健在 |
| ◎岐路に迷わば など21話 | ◎筋肉は衰えない など8話 |

B6判並製

定価 1,200円(税込)

ご注文方法

お届け先の《〒・住所・氏名・電話番号と書名・部数》をご記入のうえ、右記いずれかの方法で倫理研究所販売係まで。商品を3,000円(税込)以上お買い上げの場合、送料無料で。代金は商品に同封の郵便振替用紙にてお支払いください。

- ① ハガキ: 〒102-8561(住所記載不要) 倫理研究所販売係宛
② FAX: 03-3239-7430
③ ホームページ

(右のQRコードから申込み可)



所属

氏名



久住高原で元気に育った鶏(写真上)。
新鮮なたまごを即パッケージ化(写真右)



時代環境と共に変化対応し これからも竹田の地で 事業を継続する

大分県竹田市は阿蘇山、久住山、祖母山に囲まれた、水清く、古くから交通の要衝として栄えた城下町だ。近年は滝廉太郎作曲の「荒城の月」のモデルとなった岡城の街としても知られる。

株式会社藤野屋は、その岡城に兵庫県三木から中川公が入封した際、共にこの地に来た家柄だ。創業は二五九四年(文禄三年)で当時は、岡藩御用達のろうそく屋として藩内の住民に灯りを届けた。

以降、時代の変化と共に業態を変えて、四百年以上営んできた老舗である。

現在では、家畜用配合飼料の卸売と生産物(たまごや若鶏、豚)の買上と販売、直営農場を運営している。

「当社は農場を含め、高原地帯に位置し、夏でも涼しいのです。鶏や豚は汗腺がなく、一年を通じて涼しく快適な環境を提供することで、健康に育ちます。この健康こそが安心・安全で美味しいたまごやお肉となります。また飼料は、オリジナルの餌を作れるのが強みです。農場と工場が近いので、採れたてをすぐ工場へ移動し、パッケージングできることも地の利を活かした営みといえましょう」と語る甲斐昇一郎社長。

鶏は、ケージ飼いの他、土の上を走り回ることができ、止まり木のある「平飼い鶏舎」でも飼育する。同社は、お客様の嗜好に合わせた、たまごの種類を豊富に取り揃えているのが特徴だ。

肉鶏であるブロイラーは、契約生産者に、雛や飼料及び生産資材を供給し、こだわりの飼料でハーフ鶏を育てる。

豚は、直営農場と契約農家などで飼育。養豚業では、豚を病気から守ることを第一に考え、繁殖と肥育を分ける2サイト方式を採用する。温度管理や脱臭設備、汚水処理システムなど国内外の先進機器を導入し、地域との交流を密にしながら、社員にも地球にも優しい農場作りを推進している。

藤野屋には先祖代々、伝えられてきた口伝がある。その口伝を社員の働く姿勢や物事の判断基準とするために、会長である父・正章氏と甲斐社長と共に、「社是」「凡事十八ヶ条」として成文化し、日々の朝礼で唱和している。

「毎朝、文言を唱和することで、社員に浸透しています。藤野屋にとって、朝礼は感謝の気持ちを深め、『さあ、始めるぞ』とそれまでの感情をリセットし、仕事



活力朝礼で、仕事モードへスイッチを切り替えていく

モードに入る大切な時間なのです」

甲斐社長は、「挨拶、返事、後始末のできる」社員を育成しつつ、皆が任せながらも寄り添える職場環境を目指す。

「近い将来、祖業である、ろうそく作りにも立ち返りたい。文禄の時代も令和の現代も、人の心に癒しを与えるのは、明かりを灯すことだと思うからです」と社の近未来像を熱く語る甲斐社長。

次なる百年も竹田の地で、「藤野屋」という屋号をもって、地元の人々の癒しの月明りとなって営み続けていく。

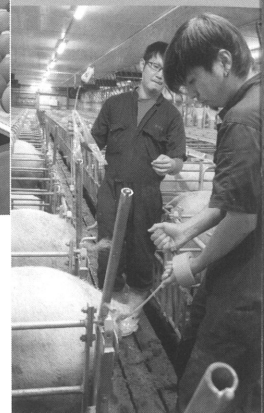


品質にこだわった流通体制で鮮度と質の良いたまごを出荷する



「次の100年も藤野屋として変わらず地域に根差し、生産者、消費者の方々と共に歩む企業でありたい」と力強く語る甲斐昇一郎社長(右)と父・正章会長

大自然で育った美味しさを そのまま食卓にお届け



カテーテルを用いて人工授精を行なう



子豚は生後70日間、繁殖農場で暮らす

株式会社 藤野屋 大分県竹田市倫理法人会

所在地 大分県竹田市大字菅生953
電話 0974-65-2321
代表取締役社長 甲斐 昇一郎
創業 1594年(文禄3年)
資本金 4800万円
従業員 80人
事業内容 養鶏業・養豚業、畜産品の加工・販売、各種飼料の販売、他
ホームページ <https://www.fujinoyaweb.co.jp/>



後

日本の食卓を元気にします



藤野屋商店
<http://www.fujinoyaweb.co.jp>

おはよう!
カンパニー

287